JFA の会長予定者選出に関する活動書類

（ふりがな）　　みやもと　つねやす

氏名：　　宮本　恒靖

※　本活動書類は、JFA のホームページ等で公開します

（1）提案する政策　　氏名　　宮本　恒靖

JFA が 2005 年宣言で謳っている、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念の実現を再認識する。
サッカーがこの国においてもっと大きな存在になるために、
すべての関係者の皆さんと一緒に、新しいこれからの日本サッカーを前へ進めていく。

１．強い日本代表を作り続ける

男子代表の過去におけるワールドカップの最高成績はベスト１６である。しかし、特にこの１年間の代表チームの戦績、パフォーマンスが右肩上がりであることを見た時、次回以降の大会ではベスト８、さらにはそれ以上の成績に到達できるような期待を抱かずにはいられない。
また、女子代表においても、今年のワールドカップでは多くの関係者から賞賛を浴びたそのサッカースタイル、戦いぶりは世界のベンチマークとなっている。
フットサル、ビーチに関しては来年ワールドカップを控えており、世界の舞台でその力を存分に発揮してもらいたい。
サッカーをこの国で大きな存在にしていくには、いつも人々のそばに強い日本代表があり、感情の爆発や喜びを提供していくことが不可欠である。

２．国内コンペティション・リーグを強化する

強い代表チームを作るには国内リーグの強化が必要なのは言わずもがなであるので、J リーグや WE リーグをしっかりとサポートしていく。
現在 J リーグのシーズン移行が議論されているが、仮に移行の決定が下された場合にもリーグが、またはクラブが安定して運営していけるように金銭的なサポートができるように準備していく。
また審判の育成も競技を高いレベルで成立させるために必須である。
さらに、日本の指導者がアジアだけではなく欧州でも活躍できるように、ライセンスの互換性や講習内容の改善も視野に入れていく。

３．キッズ・女子・シニアを重点 3 領域として扱う

将来にわたって日本代表を支える人材を輩出し続けるには、普及、育成、強化のプロセスはとても重要である。
また、それだけではなく、2022 年に発表したジャパンズ・ウェイでも表したように、生涯にわたってサッカーをプレーしてもらう環境、体制作りも重要と考える。
これらの観点から、キッズ・女子・シニアの領域を重点 3 領域として施策を打っていく。

４．施策の最適化を図る

取り組んでいる普及の施策が持続的なのか、正しい道を歩んでいるのかを定量的に検証していく。
JFA パスポートの会員数を 350 万人に到達することを目標にし、アプリを活用することでサッカーファミリーの拡大、サービスの提供につなげていく。

５．サッカーを通して社会課題を解決する

環境、人権、健康、教育、地域を５つの重点課題とし、各種の取り組みを実施する。
多様性やインクルージョンを推進し、誰もがサッカーをする、見る、関わる状態を目指して様々な発信、活動を行う。
学校の部活動の移行に関しても注意深く経過を見守り、各地域からのヒアリング、視察、フィードバックを元に、それぞれの課題に対応していく。

６．新しい成長モデルを構築する

現在、JFA は予算が 200 億円強の法人であるが、今後は新たな価値を創出していくことで更なる成長を目指していきたい。
東京ドームシティに新しく設立した新たな施設「blue-ing!」では、サッカーの新しい触れ方を提供しライト層と呼ばれるファンの拡大を図る。
また、パートナー各社とは互いの強み、ネットワークを生かしながら社会課題を解決していくことで、新しい価値を共創していく。

７．適切なガバナンスが働く組織を構築する

理事会の人数を減らし、スムーズな意思決定ができる場とし、よりスピード感を意識した運営をしていく。スポーツ団体ガバナンスコードに定められた「女性理事 40%以上、外部理事 25%の登用」を達成することで、より多角的な視点を持った透明性のある組織を目指す。

８．関連団体とさらなる連携を図る

各連盟、団体とコミュニケーションを取りながら、現状や課題を共有しつつ更なるサッカー界の発展、サッカー文化の創造につなげる。
特に日本サッカーの根幹を支える各 47FA との会話を増やし、地域ごとの課題解決に向けて協働していく。

※　１ページに収めらない場合は、適宜追加して下さい。

（2）提案するプログラム　　氏名　　宮本　恒靖

① FIFA 主催大会の招致

U17 や U20 などの FIFA の大会を日本に招致する。
強い代表チームを持ち続けるためには育成年代からの強化は不可欠で、その国際大会を開催することでより競争的な環境を作り出していく。
また、国際大会を日本で開催することで、国内でサッカーの理解が深まる、また露出が増える状態を目指す。

② J リーグがシーズン移行を決定した際に備えて 20 億円強を準備する

シーズンを移行する際に生じる 0.5 または 1.5 シーズンを成立させるための補助や、キャンプ費などを補填する目的。
J リーグや J クラブとはさらにコミュニケーションを深めながら、中長期のプランを共有し協働していく。

③ 施設整備助成金の準備と適用内容の変更の検討

現在プールされている 12 億円の施設整備助成金に 35 億円を上乗せして、各 47FA に対応できる助成金を用意し、J リーグがシーズン移行した際に各地域におけるサッカーの活動場所の確保につなげる。
また、現在の施設整備助成金の助成対象適用経費の内容が時代の要請にあっているか、再度検討する

④ 指導者の海外進出のさらなる後押しのための講習内容の見直し

数多くの選手が海外に活躍の場を移している中、指導者も海外で切磋琢磨し、日本サッカーの発展につながることが望ましい。
海外のクラブ、代表チームにおいて高いレベルで指導できることを目的とし、講習の中で英語を使ったコーチングの機会を作る。

⑤ スターターキットの配布

キッズ世代のサッカーの普及のために、各 FA の取り組みの機会に合わせてスターターキットを配布する。

⑥ 2031　FIFA 女子ワールドカップ招致

2024 年度から高校女子サッカー選手権へ各都道府県から代表校が出場することになるが、それに関連して、U15 年代の女子クラブの増加が期待されている。

その流れがある中で、2031 の女子ワールドカップを招致することで、国内で女子サッカーが拡大していくことを狙いとする。
国内に一気に女子サッカーの拡大の空気を醸成し、WE リーグやなでしこリーグの安定した経営と運営につなげていく。

⑦ 女性指導者の機会創出のための支援

女性指導者の活躍の機会創出を狙いとして、なでしこリーグのクラブがその監督に女性指導者を据えた場合、クラブに一定額の給付金を支給する。

⑧ JFA の収入増に向けての試み

マーケティングの見直しと、新たにパートナー企業各社と取り組んでいる価値共創をベースに JFA の収入増につなげていく。SDGs や ESG 投資の観点からも新しい施策を打っていく。

⑨ 気候変動による暑熱対策として、最適なカレンダー制定のための試案作成

WE リーグはすでに秋春制でシーズンが行われており、またシーズン移行を J リーグが検討している最中であるが、育成年代においても選手やスタッフ、大会運営に携わる関係者全員にとって適切なカレンダーの制定を考えていく必要がある。

⑩ リスペクト・セーフガーディングの徹底と浸透

暴力・暴言の根絶、リスペクト、セーフガーディングの浸透に対する課題を共有できてはいるが、残念ながら、JFA のホイッスルブローイングに寄せられる案件が無くなることはない。
これからは指導者による関係者に対する暴力・暴言行為が認められた場合、当該者はその氏名を公表するということをルール化する。
事前に通達しておくことで、その行為を抑制することに繋げていく。

⑪ 47FA への対応の改善

各地域への訪問の頻度を上げることで、互いに顔が見える形でのコミュニケーションを密にしていく。自主的財源の確保に向けて、地域の実情に合わせた施策を打てるよう、各地域で活動している技術・審判委員長のような形でマーケティングや法務、ガバナンスの知見に長けた人材を要望に応じて随時派遣できるようにする。

⑫ 日本のサッカーの国際舞台におけるプレゼンスの向上

日本代表チームが強くあることは、サッカーの国際舞台での日本の存在感の高まりに繋がっている。
一方で、サッカーの国際的な方向性は FIFA や AFC で話し合われており、その意思決定が下される前に一定の情報や傾向を掴んでおくことは極めて重要である。
そういった国際機関に日本から人材を派遣し続けることを推進する。

※　１ページに収めらない場合は、適宜追加して下さい。

（3）その他

氏名　　宮本　恒靖

① 最終学歴（中退を含む）

2013 年　　7 月　31 日	FIFA マスター修了

②生年月日

生年月日	1977 年　　2 月　　7 日 ※2024 年 3 月 23 日における満年齢　　47　歳

② 職業・勤務先

職業	公益法人役員
勤務先等	公益財団法人　日本サッカー協会
所属・役職等	専務理事

④役員の選任及び会長等の選定に関する規程　第４条 〔会長候補者の要件〕のおける、「直近５年間のうち２年以上、本協会、地域サッカー協会、都道府県サッカー協会、Ｊリーグ、各種の連盟、リーグ、クラブ等の役員、職員、選手、審判、指導者、その他サッカーと関わりが深いと認められる立場で、サッカー界において実質的に活動し、貢献していること」についての記述

2015 年ガンバ大阪ジュニアユースコーチとして育成年代の指導にあたる。
2016 年にはガンバユース監督として活動。
2016 年 S 級ライセンスを取得。
2017 年から 1 年半、ガンバ大阪 U23 監督として J3 リーグを戦うチームを指揮。
2018 年から 2021 年にかけてガンバ大阪にてトップチーム監督
2022 年、日本サッカー協会理事、会長補佐として協会の運営に関わる。
2023 年から現在にかけて日本サッカー協会にて専務理事を務めている。
また、2022 年から現在にかけて、J リーグ理事も兼ねている。

以上